

あいちの三英傑、実は四英傑では？

1年7組 坂部 孝樹

① 調べようと思っ たわけ

僕の家にあいちが作成した「あいち武将観光ガイドブック」という冊子がありました。その中には西三河の観光地が8カ所と多くありましたので、実際にこれらの観光地を訪れ、観光地としての魅力がある場所か、また、これらの観光地同士が歴史上どのような関係にあるのか調べ、あいちから出た「三英傑」は本当に3人だけなのか調べようと思っ たから。



② 調べ方 (調査の仕方)

あいち武将ガイドブックに載っていた観光地は60カ所と多くあったので、西三河の徳川家康の観光地を中心に調べる。まず、徳川家の発祥の地として調べ、松平の山間部から岡崎平野へ進出した時の岡崎市内の観光地を調べる。次に、調べていく途中源頼朝が西三河地域と大きく関係していることを知り、源頼朝とその先祖についても調べることになった。



松平郷までの風景



松平郷、岡崎平野へのルート

③ 現地調査をした場所

現地調査をした場所は、以下の8カ所である。

① 高月院 (徳川家発祥の地)

松平家の菩提寺。徳川家康の祖先、松平氏初代と二代の墓がある。家康をはじめ歴代将軍の手厚い保護を受けた。山門や本堂は三代将軍家光によつて建立された。



今回現地調査した場所

< 調査結果 >

豊田市の東部、東海環状道路松平インターから車で10分であつた。山門は、駐車場の後、石の階段の内を上がった。説明がなかった。寺の境内には、自動販売機がなく、飲み物は事前に用意してある。本堂は自由に撞いてよいと案内がなかった。訪問者は少なく、静かな山門であった。自動販売機はなく、飲み物は事前に用意してある。



説明の看板



高月院 本堂

② 松平東照宮

かつて松平郷松平氏の館跡地にこの地八幡社と東照権現を合祀し創建。館跡の掘や石垣が残る。境内の産湯の井戸は、松平家男子誕生の際に使われ、家康誕生時も岡崎城まで草馬で運んだといわれる。四季の草花を描いた本堂の天井画も必見。



松平東照宮の天井画

松平東照宮本堂正面

< 調査結果 >

高月院の手前100mの所にあり、入口には掘があり、錦鯉が多く飼育されていた。天井画は風通しの良い本堂にあり、綺麗で、保存状態はよい。近くに休憩所があり、徳川家の系図などが展示されている。訪問者は少なく静かな山村部落の中にあり、豊田市の観光案内板も整備されている。自動販売機が設置されている。

③ 滝山寺・東照宮

三代将軍徳川家光により岡崎城の鬼門を守護する滝山寺の境内に創建された。日本三大東照宮のひとつ。本殿のほかに拝殿、幣殿など国の重要文化財に指定されている。社殿内部も拝観可能。滝山寺は、運慶、湛慶作の「聖観音・梵天・帝釈天」を寺宝とする古刹。



滝山寺 本堂



滝山東照宮

< 調査結果 >

滝山寺は鬼祭り(火祭り)で有名であるが、源頼朝の従兄弟(頼朝の体たたいの胎内)の熱田神宮の神官(宮司)が祖父である。などと説明があり、源頼朝は愛知県の出身の武士であることが分かった。しかし、この寺への訪問者は少ない状況であった。



源頼朝と滝山寺住職は従兄弟であった。



鎌倉時代の石像(12世紀末頃の作)で、頼朝の像と推定されている。

④ 野間大坊

鎌倉幕府を開いた源頼朝の父義朝が眠る寺。義朝の墓や頼朝寄進の大門をはじめ、狩野探幽の手による「義朝最期」を拝観できる客殿は伏見城の遺構を移築したものと伝わる。また豊臣秀吉との戦いに敗れた信長三男織田信孝の墓もある。

< 調査結果 >

野間大坊は住職を始め関係者が不在であり、静



野間大坊の大門(客殿)は伏見城の遺構を移築したと伝わる。

⑦ 三河武士のやかた家康館 (岡崎城)

2023年1月から翌年1月までは大河ドラマ館として運営。階、地階のスペースに出演者の衣装や撮影小道具の展示の他、映像コーナーが設けられ、大河ドラマ「どうする家康」の世界に彩られていた。隣接する岡崎城天守や市内の家康ゆかりの史跡めぐりの出発点である。



< 調査結果 >

資料館には、開館30周年記念の冊子が置かれていた。観光には力を入れており、50人ほどの入館者がいた。受付には3名ほどの専門の職員がいて親切に説明をしていた。展示物も豊富で、関ヶ原合戦の様子をジオラマで説明していた。また、実際の重さを再現した槍、刀、乗馬など、子供が喜ぶ仕掛けもあった。

⑧ 六所神社

もともとは松平家の氏神として松平郷に創建。



六所神社山門(石段が壊れている)



奉納された額(1997年指定文化財であった)

徳川家康の誕生時には産土神とされた。江戸時代、三代将軍家光が社殿を再建。本殿、幣殿、拝殿、桜門、神供所は国の重要文化財に指定されている。手相までわかる家康の手形は必見である。

< 調査結果 >

六所神社は岡崎城に最も近く、徳川家が常に参拝をしていたところであると説明があった。名鉄東岡崎駅にも近く、こんな都市部に静かな場所(六所神社)があるとは不思議であった。受付には神官が2名いて、親切に説明をしてくれた。「暑いからエアコンのある休憩所で休んでください。」と親切な言葉もいただいた。

④ 結果

調査した結果は以下のようにまとめることができた。

- ① 調査した神社や寺では訪問者が見学しやすい工夫が多くあった。
- ② 徳川幕府は西三河の神社や寺を手厚く支援していた。
- ③ 特に三代将軍徳川家光は西三河の神社や寺の改修、創建に力を入れていた。
- ④ 鎌倉幕府を開いた源頼朝が熱田神宮と滝山寺に大きな関係があり、滝山寺の住職と従兄弟の関係であった。
- ⑤ 頼朝の死後、住職は鎌倉まで行き、頼朝本人の顎ひげと歯をいただき、滝山寺の本尊の胎内に納めた。
- ⑥ この仏像は運慶、湛慶作であり、顎ひげと歯がレントゲン写真に写った結果、この仏像は国の重要文化財となった。
- ⑦ 頼朝の父(義朝)は知多半島の美浜町にある野間大坊に墓があり、

源頼朝はその野間大坊に五重塔を建立したが、焼失後再建されな
かた。

⑧ 徳川家康は源頼朝を大変尊敬していたと現在の滝山寺住職から説
明を聞いた。

5 考察

① 歴史は、教科書に載っている部分だけ
でなく、現地を訪れることにより、更
に様々な歴史と歴史との関係が理解で
きると思った。

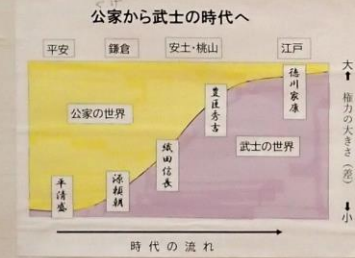
② 西三河地域は、徳川だけでなく、他の
武将や神社・寺も大きく関係している
ので、徳川のことだけ調べるのは十分
な研究とは言えないと思った。

③ 特に、神社や寺院を訪ねると、神官や
住職の人々から詳しく、興味のある話を聞くことができるので、
今後歴史を学ぶには、神社・寺院の調査は欠かせないと思った。

④ 源頼朝の時代は武士の力がまだ弱く、公家（朝廷）からの力もあ
り、さらには元寇などの事件もあり、寺院などの再建に力を注ぐ
余裕がなかつたので、野間大坊の五重塔の再建を始め多くの仕事
が出来なかつたように思われた。

⑤ しかし、武士の力が強くなつた徳川時
代になると、幕府の財力が大きくなり、徳川
文化などが大きく開花したので、徳川
幕府に付き関係する神社・寺院へ手厚い保
護が英傑（信長、秀吉、家康）が愛知県

⑥ 三と英傑（信長、秀吉、家康）が愛知県
と関係しているが、更に深く調
査することにより、生誕地、家系図、
などを見ると、源頼朝を加えて



日本全体に影響を及ぼした人物なども
『あいちの四英傑』というこ

6 結論（僕の考え）

あいちの三英傑と言われているが、源頼朝も加えて、
『あいちの四英傑』と言
た方が良く考える。



あいちの武将 四英傑				
氏名	源頼朝	織田 信長	豊臣 秀吉	徳川 家康
生誕地	厩橋寺 (熱田神宮隣接地)	勝幡城 (現在城跡のみ)	中村郡中々村 (豊田神社あたり)	岡崎城
住所	名古屋市熱田区	稲沢市平和町	名古屋市中区	岡崎市康生町
活躍の場所	鎌倉・関東一円	岐阜・京都など	京都・大坂など	東京・静岡など
死亡年齢	51才	47才	61才	73才
墓の場所	鎌倉市	高野山	京都市	静岡市・日光市